

# 海洋安全保障情報月報

2009年3月号



## 目次

2009年3月の主要事象

### 1. 情報要約

- 1.1 治安
- 1.2 軍事
- 1.3 外交・国際関係
- 1.4 海運・資源・環境・その他

### 2. 情報分析

2009年版・中国の軍事力に関する米国防省報告書

本月報は、公表された情報を執筆者が分析・評価し要約・作成したものであり、情報源を括弧書きで表記すると共にインターネットによるリンク先を掲載した。

発行者：秋山昌廣

執筆者：秋元一峰、犬塚勤、今泉武久、上野英詞、國見昌宏、小谷哲男、友森武久、高田祐子

---

本書の無断掲載、複写、複製を禁じます。

## 2009年3月の主要事象

**治安：**3月に入って、海賊の活動が活発化してきている。22日には、日本の商船三井が運航する自動車運搬船がソマリア沖東方480カイリの海上で襲撃された。3月頃から、各国海軍戦闘艦が展開していない、ケニア沿岸沖に至るソマリア東岸沖での襲撃事案が増える傾向にある。しかも、沿岸から遠く離れた海域で発生している。

一方、アデン湾海域では、各国海軍の派遣戦闘艦の活動も活発化してきており、それに伴って海賊容疑者を拘束する機会も増えている。EUや米国はケニアとの間で、海賊容疑者引き渡し協定を結んでいる。3月には、米国とドイツが海賊容疑者をケニア当局に引き渡した。

韓国と日本が新たにソマリア沖に艦隊を派遣した。海上自衛隊の護衛艦2隻は14日に呉を出港し、30日から最初の護衛任務を開始した。

潘基文・国連事務総長は18日、2008年12月2日の安保理決議1846の要請に基づき、ソマリアに関する事務総長報告書を公表した。報告書は、ソマリアの海賊の実態について、2つの主要な海賊ネットワークが存在すると指摘している。事務総長はまた、無政府状態にあるプントランドとソマリランドにおける開発とより良い政府の樹立に向けて支援するよう、加盟国に対して改めて要請した。

**軍事：**米国防省報道官が9日に明らかにしたところによれば、中国船5隻が南シナ海で8日、米海軍の海洋調査艦を尾行し、接近して進路を妨害するなどした。海洋調査艦は、海南島南方70カイリの公海上で、水路調査を行っていた。国防省の報道官は、中国船の行動は危険な行為であった、と非難した。

ロシアのセルジュコフ国防相は17日、*Borey*級新型SSBNの1番艦の係留運転を開始した、と語った。同級SSBNは、最大潜航深度450メートル、潜航時の速度約29ノットで、16基のBulava潜水艦発射弾道ミサイルを搭載する。現在、2隻の同級SSBNが建造中で、それぞれ2009年と2011年に完成すると見られる。ロシアは、2015年までに8隻の同級SSBNを建造する計画である。

一方、ロシア海軍高官が19日に語ったところによれば、ロシア海軍の現有潜水艦戦力は約60隻で、10隻のSSBN、及び30隻以上の通常型、特殊任務潜水艦が含まれる。通常型の主力は*Kilo*級だが、Project 667 *Lada* 級に徐々に更新されることになっている。*Lada* 級1番艦は現在、公試中で、2009年中に配備されると見られる。2番艦はシリーズ生産型の1番艦で、2009年中には就役すると見られる。3番艦は2010年に進水予定である。

米国防省は25日、「中国の軍事力」に関する年次報告書を公表した。この報告書は8回目、オバマ政権になって初めての報告書である。これについては、2.1情報分析で取り上げた。

**外交・国際関係：**フィリピンのアロヨ大統領は10日、領海基線法に署名した。領海基線法は、スカーバラ礁とカラヤン諸島（南沙諸島）を領海基線に含めず、これらを基線の外側にある、(UNCLOS第121条の)「島の制度」として扱っているが、スカーバラ礁とカラヤン諸島に対するフィリピンの主権を明記している。

アロヨ大統領が領海基線法に署名したことに対して、在マニラ中国大使館は11日、南シナ海の領土に対する違法かつ根拠のない主張とし、強く反対し、厳重に抗議する、との声明を発表した。また、中国は、漁業監視船を西沙諸島に派遣した。同船は、中国の最南端の領海にある西沙、南沙及び東沙

諸島周辺での中国漁船を保護すると共に、これら諸島に対する中国の主権を誇示する。

**海運・資源・環境・その他：**中国国家海洋局の孫志輝局長は9日、中国は2008年に有人深海潜水艇を完成させ、2009年に公試を開始する、と語った。成功すれば、中国の有人深海潜水艇は7,000メートルの深海に到達することができ、これまでの6,500メートルを凌駕することになる。

エジプトのスエズ運河庁によれば、スエズ運河の2月の収入と通航隻数は共に減少し、6カ月連続の減収となった。それによれば、2月の収入は、前年同期の4億770万米ドルに比して、3億180万米ドルであった。一方、通航隻数も、前年同期の1,676隻に比して、1,272隻であった。

中国とミャンマーは26日、両国を繋ぐ石油パイプラインの建設を含む、4つの協定に調印した。これによって、中国は2009年に、ベンガル湾のアラカン州チャウッピュー港から中国南西部に至る、1,200マイル以上の石油・天然ガス・パイプラインの建設を開始する。専門家は、中国は、マラッカ海峡迂回ルートとして、このパイプラインを中東、アフリカからの天然ガスと石油輸入にも利用する、と見ている。

# 1. 情報要約

## 1.1 治安

### 3月2日「イエメン沿岸警備隊、韓国船を救助」(The Earth Times, March 2, 2009)

イエメン内務省によれば、イエメン沿岸警備隊は2日、韓国の貨物船を海賊の襲撃から救出した。それによれば、アデン沖約40カイリの海上で海賊の襲撃を受けているとの韓国船からの救難信号に、アデン港に基地を置く沿岸警備隊部隊が対応した。沿岸警備隊の警備艇が現場海域に近づいたとき、海賊はロケット推進擲弾筒を韓国船に向けながら停船させようとしていた。沿岸警備隊とソマリアの海賊との間で銃撃戦となり、海賊1人が死亡した。海賊は逃亡し、該船は航行を続けている。船名、その他の詳細は不明。

### 3月2日「米、海賊容疑者9人をソマリアに引き渡し」(Fairplay Daily News, March 3, 2009)

米海軍誘導ミサイル巡洋艦、USS *Vella Gulf*が2月12日に拘束した海賊容疑者9人は、2日にソマリアのプントランド自治政府沿岸警備隊に引き渡された。米海軍中央軍司令部によれば、米海軍は状況から判断して彼らを起訴するための証拠が不十分との結論に達し、引き渡した。なお、USS *Vella Gulf*が2月11日に拘束した海賊容疑者7人は依然拘留されている。(OPRF 海洋安全保障情報月報 2009年2月号 1.1 治安参照。)

#### 【関連記事】

### 「米、海賊容疑者7人をケニアに引き渡す」(Reuters, March 5, 2009)

米国は3月5日、(USS *Vella Gulf*が2月11日に拘束した)海賊容疑者7人を起訴のためケニアに引き渡した。両国間に引き渡し協定が1月27日に締結されて以来、初めての引き渡しとなった。

### 3月3日「米独両艦、アデン湾で海賊の襲撃阻止」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, March 3, 2009)

EU艦隊に属するドイツ海軍フリゲート、*Rheinland-Pfalz*とCTF-151の属する米海軍駆逐艦、USS *Monterey*は3日、アデン湾でドイツの海運会社所有のコンテナ船(アンティグア・バーブーダ籍船)、MV *Courier* (1,440TEU) から海賊の襲撃を受けているとの救難信号を受信し、両艦から発進したヘリが海賊の襲撃を阻止した。海賊はヘリを視認して該船への攻撃を中止し、2隻のボートは逃げ出した。独艦のヘリはその内の1隻を10分以上にわたって追跡し、警告射撃で停船させた。独艦が近接して乗り込み、搜索し、海賊容疑者を拘束し、燃料、武器、梯子などを押収した。米艦も残りの1隻を追跡し、停船させ、海賊容疑者を拘束した。拘束された海賊容疑者は全部で9人であった、MV *Courier*は、損傷がなく、18人の乗組員も無事であった。

#### 【関連記事1】

### 「ドイツ、拘束海賊容疑者の取り扱い問題に直面」(The Earth Times, March 3, 2009)

ドイツ国防省によれば、拘束された海賊容疑者9人はドイツ海軍フリゲート、*Rheinland-Pfalz*に収容された。押収した武器は、安全上の理由から海中に投棄された。ドイツは、拘束した海賊を、国

内で裁判にかけるか、第3国に引き渡すかを決定しなければならない。内務、外務、国防及び司法の各大臣を含む特別委員会で、ドイツ国内法に基づいて処理するかどうかが決まる。国内法で裁かれる場合、EU 艦隊の基地が置かれているジブチに海賊容疑者を移送し、ドイツ連邦警察機関が容疑者を引き取り、その後ハンブルグに移送されることになる。なお、MV *Courier* はブレーメン市で登記されているが、該船の旗国はアンティグア・バーブーダであることから、該船の法的ステータスは複雑である。

## 【関連記事2】

### 「ドイツ、海賊容疑者をケニアに引き渡し」( Ecoterra International, March 10, 2009 )

ドイツは10日、9人の海賊容疑者をモンバサでケニア当局に引き渡した。ケニアへの引き渡しは、EU がケニアとの間で6日に締結した引き渡し協定によって可能となった。これで、起訴のためにケニアに引き渡された海賊容疑者は全部で24人となった。一部は既に、起訴されている。

### 3月4日「中国ソマリア派遣艦隊、台湾船をエスコート」( China Daily, March 5, 2009 )

中国ソマリア派遣艦隊は4日、マンダブ海峡から台湾船、MV *Taisu No 12* と4隻のその他の船舶のエスコートを開始した。台湾船の船長は、中国海軍に感謝の意を表明し、帰途も再びエスコートを望むと伝えた。同船長によれば、所属会社、Formosa Plastics Corporation は、10日前にエスコートを申請していた。中国艦隊は1月12日に初めて台湾船をエスコートしたが、この船も同社所有であった。

### 3月5日「タイ、2009年半ばにマラッカ海峡哨戒活動に正式参加」( The Jakarta Post, March 5, 2009 )

タイは2009年半ばに、マラッカ海峡の哨戒活動への参加を正式化する。マラッカ海峡の哨戒活動は現在、沿岸3国で実施されているが、インドネシア国軍司令官作戦担当補佐官、スピアディン少将によれば、タイは2カ月前から哨戒活動に非公式に参加している。同少将は、「タイの参加は、参加に当たってのあらゆる問題について、タイ国内と沿岸3国との間で十分な討議を尽くした後、2009年半ば頃に正式化される」と語った。討議される問題には、参加艦艇の隻数、タイ軍の哨戒海域などが含まれる。

沿岸3国による哨戒活動、MALSINDO Malacca Straits Coordinated Patrols は2004年7月に開始され、インドネシアのベラワンとバタム、マレーシアのルムト (Lumut)、シンガポールのチャンギに調整拠点が置かれている。タイが参加すれば、タイのプーケットも含まれることになる。哨戒活動開始以来、マラッカ海峡の海賊発生は約70%減少した。

### 3月5日「ソマリアの海賊、エジプト船を解放」( Fairplay Daily News, March 5, 2009 )

エジプトの海運会社、GACによれば、ソマリアの海賊は5日、エジプトの貨物船(セントクリストファー・ネービス籍船)、MV *Blue Star* を解放した。身代金は300万米ドルが支払われたといわれるが、詳細は不明である。該船の乗組員は28人で、積荷は6,000トンの尿素で、1月1日にアデン湾でハイジャックされた。

### MV Blue Star

<http://www.mschoa.org/FairplayStoryDisplay.aspx?articlename=dn0020090305000016>

### 3月5日「ソマリア海賊対処活動の成果 米中央軍海軍司令官議会証言」( House Armed Services Committee, U.S. House of Representatives, March 5, 2009 )

ゴートニー米中央軍海軍司令官（兼第5艦隊司令官、連合海軍司令官）は5日、米下院軍事委員会で証言し、CTF-151 とその他のソマリア沖派遣艦隊の成果について、以下のように述べた。

- ①CTF-151 とその他の派遣艦隊は、これまで 250 人余の海賊容疑者を拘束した。その内、130 人は武装解除の後、釈放された。110 人が武装解除の後、起訴され、現在、7 人が拘留されている。
- ②海賊のボート 28 隻が拿捕又は破壊された。また、133 丁の小型火器、28 発のロケット推進擲弾、51 丁のロケット推進擲弾筒、21 本の梯子とフック付きロープが押収された。
- ③3月4日までに、26 回の海賊襲撃事案があったが、その内、ハイジャックに成功したのは4件で、成功率は15%であった。現在、7 隻の船舶が拘束されており、人質となった乗組員は123 人余である。2008 年には122 件の襲撃事案があり、その内、ハイジャックに成功したのは42 件で、成功率は38%であった。

備考：ゴートニー司令官証言は以下を参照。

[http://armedservices.house.gov/pdfs/FC030509/Gortney\\_Testimony030509.pdf](http://armedservices.house.gov/pdfs/FC030509/Gortney_Testimony030509.pdf)

### 3月5日「比で海賊襲撃事案、3人死亡」( GMA News TV, March 8, 2009 )

フィリピンのバシラン島の副知事が7日に語ったところによれば、ミンダナオ島沖のバシラン島で5日、トロール漁船が海賊に襲撃され、3人が死亡し、2人が人質となった。人質となった2人の生死は不明という。該船はその後発見されたが、船内では何も発見されず、重要な物品が盗まれていたという。バシラン島周辺海域は、アブサヤフとモロイスラム解放戦線（MILF）の勢力が強い。

### 3月6日「EU、ケニアと海賊容疑者引き渡し協定調印」( Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, March 6, 2009 )

EU 派遣艦隊が拘束した海賊容疑者をケニアの法廷に起訴するための協定が6日、ナイロビでEU 代表とケニア外相との間で調印された。この協定によって、拘束した海賊容疑者を戦闘艦派遣国あるいは商船の旗国に移送することなく、起訴できることになった。EU 艦隊司令部報道官は、「この協定は、EU の海賊対策における重要な措置であり、海賊行為に手を染めようとする者への抑止力となる」とその意義を強調した。

**3月7日「ドイツ海軍戦闘艦、自国客船と併走」( Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, March 8, 2009 )**

EU 艦隊のドイツ海軍フリゲート、FGS *Rheinland-Pfalz* は7日、サラール（オマーン）を出港したドイツのクルーズ船、MS *Deutschland* とアデン湾を非公式に並んで航行した。該船は、EU 艦隊の Maritime security Centre, Horn of Africa (MSCHOA) に登録していたが、該船の乾舷が高く、20 ノット以上の高速であることから、エスコートの必要はほとんどなかった。しかしながら、ドイツ戦闘艦の艦長と該船の船長は、自国艦船同士の併走を望んだ。

<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=51>

**3月7日「イタリア海軍戦闘艦、EU 艦隊に参加」( Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, March 7, 2009 )**

イタリア海軍は7日、コルベット、ITS *Commandante Bettic* が EU 艦隊に参加する、と正式に発表した。同艦は、3月一杯 EU 艦隊の活動に参加する。同艦は、2003年にイタリア海軍が建造した4隻の軽戦闘艦の1隻で、乗組員70人、満載排水量1,500トン、監視レーダー、ヘリ1機を搭載しており、対海賊作戦に理想的な艦である。

**ITS *Commandante Bettic***

<http://www.mschoa.org/display.aspx?articlename=50>

**3月7日「中国艦隊、オランダ籍船をエスコート」( China Daily, March 7, 2009 )**

中国のソマリア派遣艦隊の駆逐艦、「海口」は7日、オランダ籍船、MV *Philippine Express* を含む3隻のエスコート任務を遂行した。該船の乗組員は全て中国人で、中国海軍司令部の承認を受けてエスコートした、最初の外国籍船となった。中国艦隊がエスコートした船舶は1月6日以来、102隻となった。

**3月8日「米揚陸艦、CTF-151の旗艦に」( Navy News Stand, March 10, 2009 )**

米海軍の強襲揚陸艦、USS *Boxer* (LHD 4) は、定期的な派遣計画の一環として、母港サンディエゴを出港し、8日に第5艦隊管轄海域に到着し、CTF-151の旗艦となった。CTF-151には現在、米国に加えて、英国、デンマーク及びトルコが参加している。



### USS Boxer (LHD 4)

[http://www.marinecorpstimes.com/news/2009/03/navy\\_flagship151\\_031009/](http://www.marinecorpstimes.com/news/2009/03/navy_flagship151_031009/)

#### 3月10日「スウェーデン、EU艦隊に参加へ」(Ecoterra International, March 10, 2009)

3月10日付の Ecoterra International によれば、スウェーデン政府は、海軍戦闘艦の EU 艦隊参加を承認した。スウェーデン海軍は、コルベット 2 隻、HMS *Stockholm* と HMS *Malmö* を派遣し、補給艦、HMS *Trossö* を随伴させる。派遣人員は 160 人である。派遣艦隊の任務は、国連世界食糧計画 (WFP) のソマリア支援船のエスコートで、アデン湾での海賊対処任務には参加しない。それでも危険な任務であり、もし支援船が襲撃された場合は、国連の交戦規則に従って、武力を行使することが認められている。

#### 3月10日「スイス、EU艦隊に軍要員・専門家派遣へ」(Ecoterra International, March 10, 2009)

3月10日付の Ecoterra International によれば、スイスは、30人程度の軍要員と専門家を EU 艦隊に派遣する。スイス外務省の声明は、軍要員と専門家の任務は国連世界食糧計画 (WFP) のソマリア支援船のエスコートに限定されるとしているが、アデン湾を航行するスイス籍船のエスコートも含まれるとしている。外務省声明は、「EU 艦隊におけるスイス軍要員の任務は、軍警察権限を超えるものではなく、海上または陸上における海賊に対する軍事行動は排除される」としている。派遣要員は特殊部隊要員、司法専門家、医療チーム及び上級将校で、派遣期間は明示されていない。スイスは 35 隻のタンカーとコンテナ船からなる自国籍商船隊を保有しており、スイス向け物資の 30%強がアデン湾を通峡している。いる。スイスは、EU の加盟国ではなく、憲法で中立を規定している。右派政党は、中立を侵害するとして、派遣に反対している。

#### 3月11日「中国の海賊対処、長期任務に 海軍副参謀総長」(Xinhua, March 11, 2009)

中国海軍の張徳順副参謀総長は 11 日、中国海軍のソマリア沖での海賊対処任務は短期間では終わらない、と語った。張副参謀総長は、「海軍は既に、アデン湾での護衛任務のための長期的計画を立案している。任務期間は、ソマリアの政治的、社会的安定如何による。我々は、短期間で終わるとは考えていない」と述べた。張副参謀総長によれば、現在の派遣艦隊の交代艦は 4 月末か、5 月初めに派遣される見通しという。

#### 【関連記事】

#### 「中国、第 2 次ソマリア派遣艦隊の構成」(Xinhua, March 31, 2009)

中国新華社の 31 日付けの報道によれば、中国の第 2 次ソマリア派遣艦隊は、誘導ミサイル駆逐艦、

「深圳」(満載排水量 6,000 トン)、フリゲート、「黄石」(同 1,924 トン)に加え、再び、総合補給艦、「微山湖」(同 2 万 3,000 トン)が参加する。派遣人員は、海軍特殊部隊を含む 800 人余で、2 機のヘリが搭載されている。主たる任務はソマリア海域での中国船と国連世界食糧計画(WFP)支援船の護衛である。4 月 2 日に湛江を出航する。

### 3 月 11 日「NATO、海賊対処活動再開へ」(AP, March 11, 2009)

NATO 報道官が 11 日に公表したところによれば、NATO は近く、ソマリア沖での海賊対処活動を再開する。それによれば、米国、カナダ、オランダ、ポルトガル及びスペイン海軍から各 1 隻、ドイツ海軍から 2 隻の計 7 隻の戦闘艦で構成される、NATO Standing Naval Maritime Group 1 が 3 月 19 日にスエズ運河を通峡する。期間は、約 1 カ月間で、その後艦隊は域内各国の港を友好訪問し、その後再び約 2 週間、6 月末頃まで海賊対処活動に復帰する。作戦名は、Allied Protector である。

#### 【関連記事】

### 「NATO、海賊対処任務再開」(AP, March 26, 2009)

NATO は 26 日付の声明で、5 隻の戦闘艦が数日以内にソマリア沿岸海域に到着し、海賊対処任務、Allied Provider を再開する。ポルトガル、カナダ、オランダ、スペイン及び米国からの戦闘艦で構成される NATO 艦隊は、ポルトガル海軍提督の指揮下で、海賊対処任務を遂行した後、東南アジアを巡航し、6 月に欧州に帰投する予定である。しかし、一部の戦闘艦は、アデン湾海域に留まることになるかもしれない。

### 3 月 11 日「ソマリアの海賊、北朝鮮船を襲撃」(Maritime Global Net, March 12, 2009)

ソマリアの海賊は 11 日、ケニア沖約 400 カイリの公海上で北朝鮮の貨物船、MV *Chong Chon Gang* (9,147GT) を襲撃し、乗組員 2 人を負傷させたが、ハイジャックに失敗した。ケニア沖での襲撃事案は、各国の海軍戦闘艦が集注しているアデン湾海域を回避しようとする兆候と見られる。

### 3 月 12 日「ロシア艦隊、海賊容疑者 10 人拘束」(CNN, March 13, 2009)

ロシア海軍の 13 日付発表によれば、ロシア海軍の誘導ミサイル巡洋艦、*Peter the Great* は 12 日、3 隻の海賊船(2 隻は小型高速ボート、1 隻は中型の支援船)を停船させ、10 人の海賊容疑者を拘束した。10 人は、全てソマリア人である。ロシア北洋艦隊法務官室から派遣されている法務官が、10 人の容疑者を調査中である。今後の取り扱いについては、ロシア外務省と司法当局の間で決定される。

ロシア海軍の発表によれば、巡洋艦から発進したヘリがイランの漁船に高速で接近する小型ボート 2 隻を発見し、2 隻のボートは近くにいた支援船の方向に逃げ始めた。2 隻のボートに乗っていた海賊は武器を海中に投棄したが、ヘリは巡洋艦到着まで追跡を続けた。その後、3 隻は巡洋艦に拿捕され、容疑者 10 人が拘束された。捕獲した海賊の武器などには、G-3 ライフルと AK-47 ライフル各 1 丁、AKMS 機関銃 2 丁、ロケット推進擲弾筒 2 基、手榴弾 2 個、GPS 受信機 1 器、梯子 1 本、麻薬 500 グラム、多額の金銭、砂糖 1 袋、及び米 1 袋が含まれていた。

### 3 月 13 日「韓国海軍、駆逐艦をソマリア沖に派遣」(Yonhap News, March 13, 2009)

韓国は 13 日、ソマリア沖での海賊対処任務に、駆逐艦、「文武大王」(満載排水量 4,500 トン)、要員 300 人からなる「清海部隊」を派遣した。鎮海基地での出航式典で、李明博大統領は、韓国は国際

安全保障活動においてより大きな役割を果たすべきである、と激励した。

韓国のソマリア派遣海軍部隊は3日、釜山で編成完了式典を実施した。部隊名は「清海部隊」で、「清海」は海上貿易を通じ統一新羅を復興させた張保臯が莞島に設置した海上貿易基地だった清海鎮に由来する。派遣戦闘艦は、4,500トンの誘導ミサイル駆逐艦、「文武大王」(KDX-II)で、対潜ヘリを搭載し、兵員は30人のUDT/SEAL海軍特殊部隊、女性士官5人を含む300人である。(The Korea Times, March 3, 2009)

<http://japanese.vonhapnews.co.kr/Politics2/2009/03/13/0900000000AJP20090313001800882.HTML>

3月14日「デンマーク・トルコ両国海軍戦闘艦、海賊の襲撃を阻止」(U.S. Central Command, Press Release, March 16, 2009)

デンマーク海軍の戦闘艦、HDMS *Absalon* とトルコ海軍のフリゲート、TCG *Giresun* は14日、イエメンのムカラ南東約50カイリの海上で、ベトナムの貨物船に対する海賊の襲撃を阻止した。HDMS *Absalon* は、ベトナムの貨物船、MV *Diamond Falcon* から、2隻の高速ボートで乗った人数不明の海賊から襲撃を受けているとの救難信号を受信し、該船に回避行動を取るよう指示すると共に、ヘリを発進させた。TCG *Giresun* もヘリを発進させた。海賊はその後、襲撃を止めた。両艦は、CTF-151の下で海賊対処に当たっている。

3月14日「海上自衛隊護衛艦2隻、ソマリアに出航」(国内メディア報道資料、2009年3月15日)

海上自衛隊の護衛艦、「さざなみ」(基準排水量4,650トン)と「さみだれ」(同4,550トン)は14日、呉港を出港し、ソマリアに向かった。護衛艦の派遣は、ソマリア沖・アデン湾における海賊への対策のための当面の応急措置として、自衛隊法第82条に基づく海上警備行動により自衛隊を派遣する、との13日の閣議決定に基づくものである。派遣人員は約400人で、護衛艦には各2機のヘリと2隻の高速艇が搭載されている。海賊の身柄拘束に備え司法警察権を持つ海上保安官が各4人乗艦しており、また海自の特殊部隊、「特別警備隊」の隊員も乗り組んでいる。

派遣護衛艦は3月末より護衛任務を開始し、防衛省によれば、4月1日に、第1回のアデン湾における護衛任務が終了した。この護衛では、5隻の日本関係船(自動車専用船3隻及びタンカー2隻)を護衛した。

写真左：出港する護衛艦「さざなみ」、右：ソマリア沖における最初の護衛・先頭は護衛艦「さみだれ」（2009年3月30日）。出典：いずれも防衛省HPから

### 3月18日「国連事務総長、ソマリア報告書公表」(UN News Centre, March 18, 2009)

潘基文・国連事務総長は18日、2008年12月2日の安保理決議1846の要請に基づき、ソマリアに関する事務総長報告書を公表した。報告書は、ソマリアの海賊の実態について、2つの主要な海賊ネットワークが存在するとして、要旨以下のように述べている。

- ①ソマリアの海賊は、ソマリア沿岸、特に北東部と中央部の漁業地域をルーツとしており、それは氏族を基盤とするソマリアの社会構造を反映している。
- ②ソマリアには、2つの主要な海賊ネットワークが存在する。1つは、プントランド(Puntland)地方で、もう1つは南部のムドゥグ(Mudug)地方である。プントランド地方で最大のグループはエイル(Eyl)地区を根拠地としている。この地方には、Bossaso、Qandala、Caluula、Bargaal及びGaracadを根拠地とする小グループも存在する。2008年末までに、これらいわゆる「エイル・グループ」は、6隻の船舶をハイジャックし、約3,000万米ドルの身代金を稼いだと見られる。
- ③ムドゥグ海賊グループは、Xarardheereを根拠地としている。2008年9月に戦車などの軍装備を積んだウクライナのローロー船をハイジャックしたのは、このグループである。このグループは、2008年9月から2009年2月の5カ月間で、他に3隻の船舶をハイジャックした。これらのグループの一部は、軍事能力と人的資源の面で、現在のソマリア政府当局に対抗する存在と見なされている。

事務総長は報告書で、無政府状態にあるプントランドとソマリランドにおける開発とより良い政府の樹立に向けて支援するよう、加盟国に対して改めて要請している。

備考：報告書の全文は以下を参照

<http://daccessdds.un.org/doc/UNDOC/GEN/N09/257/27/PDF/N0925727.pdf?OpenElement>

### 3月19日「ソマリアの海賊、ギリシャ船をハイジャック」(Reuters, March 19, 2009)

ギリシャ海運省によれば、ソマリアの海賊は19日、ギリシャの貨物船、MV *Titan* (セントビンセント&グレナディーン籍船、4万3,214DWT)をソマリア沿岸沖のアデン湾でハイジャックした。該船の乗組員はギリシャ人3人を含む24人で、黒海から韓国に向けて航行中であった。ギリシャ関係船のハイジャックは、過去3カ月で3隻目である(1隻はアフリカ東岸での事案)。

## MV Titan

<http://convenientflags.blogspot.com/2009/03/mv-titan-st-vincent-flagged-taken-by.html>

### 3月19日「トルコ戦闘艦、海賊の襲撃を阻止」(Hurriyet Daily News, March 22, 2009)

トルコ軍広報官が20日に明らかにしたところによれば、トルコ海軍のフリゲート、TCG *Giresun* は19日、トルコ関係船、MV *Ulusoy 8* が2隻の高速ボートから襲撃を受けているとの救難信号を受信し、現場海域に向かい、ヘリを発進させて、襲撃を阻止した。TCG *Giresun* はCTF-151に参加して、海賊対処に当たっている。

### 3月20日「米海軍、海賊容疑者を拘束後、釈放」(U.S. Naval Forces Central Command, Public Affairs, Press Release, March 21, 2009)

米海軍誘導ミサイル巡洋艦、USS *Gettysburg* (CG 64) は20日、アデン湾で6人の海賊容疑者を拘束した。同艦は、フィリピン籍船、MV *Bison Express* からの6人の重武装の海賊が乗った小型ボートに追跡されているとの救難信号を受信し、発進したヘリが小型ボートを捉えた。同艦からの臨検・立ち入り・捜索・拿捕 (VBSS) チームが、米沿岸警備隊の法執行分遣隊、LEDET 409 と共に、同意を得てボートに立ち入り、海賊容疑者6人を拘束した。彼らはその後、CTF-151の旗艦で洋上基地となっている揚陸艦、USS *Boxer* (LHD 4) に移送された。CTF-151は、彼らを調査の後、起訴する十分な証拠がないとして、小型ボート共に釈放した。この日は、MV *Bison Express* が襲撃される前に、MV *Sea Green* が近づいてくる小型ボートに対して数発の警報フレアを発射し、逃れた。

### 3月21日「ソマリアの海賊、インドの貨物船を襲撃、数時間ハイジャック」(The Times of India, March 22, 2009)

インドの海運管理会社が明らかにしたところによれば、インドのダウ船、MV *Al Rafiquei* は21日、ドバイからソマリアのモガディシュに向かう途中、海賊に襲撃され、ハイジャックされたが、約8時間後に解放された。乗組員は16人全員がインド人で、海賊は該船を解放するに先立って、乗組員を殴打し、携帯電話、ガソリン5バレル、ディーゼル油20バレルを盗んで、退散した。該船は、米、精製油、小麦及びその他の貨物を積んでいた。

### 3月22日「ソマリアの海賊、商船三井関係船を襲撃」(MOL 商船三井、プレスリリース、2009年3月23日)

3月23日付けMOL 商船三井のプレスリリースによれば、同社運航する自動車運搬船、MV *Jasmine Ace* (英領ケイマン諸島籍船、1万3,038GT) は22日、ソマリアの東方480カイリの海上で、高速ボート2隻に乗った海賊から銃撃を受け、船体に損傷を受けた。該船は、スピードを上げジグザグに走るなど、約40分の回避行動をとった結果、海賊の襲撃を自力で振り切った。襲撃による

負傷者はなく、油等の流出もなかった。該船は、操舵室の窓ガラス等に損傷を受けたが、自力航行に支障はない。該船は、3月17日にアラブ首長国連邦のシャルジャ港で中古車を積み、ケニアのモンバサ港に向け航行中であった。

### MV Jasmine Ace

[http://1.bp.blogspot.com/\\_E-QOnTGFX\\_o/Scdz9sHJ53I/AAAAAAAAAG3U/B2hWZDvXjWw/s1600-h/Ship%2BPhoto%2BJASMINE%2BACE.jpg](http://1.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/Scdz9sHJ53I/AAAAAAAAAG3U/B2hWZDvXjWw/s1600-h/Ship%2BPhoto%2BJASMINE%2BACE.jpg)

3月25、26日「ソマリアの海賊、タンカーを連続ハイジャック」(Navy News Stand, March 27, 2009)

ソマリアの海賊は25日、ノルウェーのケミカル・タンカー、MV *Bow Asir* (バハマ籍船、2万2,847DWT) をハイジャックした。該船の乗組員は23人である。26日には、ギリシャのケミカル・タンカー、MV *Nipayia* (パナマ籍船、8,742DWT) をハイジャックした。該船の乗組員は19人である。MV *Bow Asir* はソマリア東岸のKismayo南東380カイリ以上の海上で、MV *Nipayia* はモガディシュ当方490カイリの海上で、それぞれハイジャックされた。この海域は、各国海軍戦闘艦が哨戒するアデン湾からはるかに離れている。

### MV Bow Asir (2万2,847DWT)

<http://www.ottawacitizen.com/Pirates+haul+tankers+Somali+coast/1435576/story.html>

3月25日「セイシエルのヨット、ハイジャック 国営放送確認」(Shiptalk, March 26, 2009)

セイシエルの国営放送が25日に報じたところによれば、2人乗りのヨット、SY *Serenity* がインド洋で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。このヨットは2月28日にセイシエルを出て、マダガスカルに向かう途中、セイシエル南方約200カイリの海上で消息を絶った。2人の内、1人が24日に家族と連絡を取ったことから、ハイジャックが判明した。セイシエル政府は、英国、フランス及び米国政府に支援を要請した。

### 3月28日「ソマリアの海賊、ドイツのタンカーを解放」(Trade Winds, March 30, 2009)

ソマリアの海賊は28日、ドイツのLPGタンカー、MT *Longchamp* (バハマ籍船、4,316DWT) を解放した。該船は、1月29日にノルウェーからベトナムに向かう途中のアデン湾でハイジャックされた。該船は、ハイジャックされたとき、指定された安全回廊を、インドの戦闘艦にエスコートされて航行していた。乗組員は13人で、全員無事であるという。身代金は航空機から投下されたが、金額は不明である。海賊は当初、600万米ドルを要求していたといわれる。

#### MT *Longchamp* (4,316DWT)

[http://4.bp.blogspot.com/E-QOnTGFX\\_o/Sc4\\_vypEfmI/AAAAAAAAAG5k/YOacEgTAHEU/s1600-h/ongchamp.jpg](http://4.bp.blogspot.com/E-QOnTGFX_o/Sc4_vypEfmI/AAAAAAAAAG5k/YOacEgTAHEU/s1600-h/ongchamp.jpg)

### 3月29日「ソマリアの海賊、ドイツ海軍補給艦を誤認襲撃」(Combined Maritime Forces Public Affairs, Press Release, March 30, 2009)

ソマリアの海賊は29日、EU艦隊所属のドイツ海軍補給艦(乗員は文官)、FGS *Spessart* を商船と誤認し、追跡して発砲した。同艦は、乗艦している保安要員が応戦しながら、状況を付近の各国戦闘艦に通報した。オランダのフリゲート、ヘリ搭載のスペインの戦闘艦、スペインのP-3C哨戒機、CTF-151旗艦の米艦から発進した2機のヘリ、及びEU艦隊旗艦のギリシャ艦を含む、多くの戦闘艦やヘリが現場に増集し、海賊のボートを捕捉した。ドイツ海軍の臨検チームがボートに乗り込み、7人の海賊容疑者と武器を発見した。海賊容疑者は武装解除され、ドイツ海軍のフリゲート、FGS *Rheinland-Pfalz* に移された。

同艦はその後、ケニアに向かっている。拘束された7人の海賊容疑者がケニア当局に引き渡されるか否かは、未定である。ドイツの検察当局も、7人を起訴した。(Lloyd's List, April 1, 2009)

#### FGS *Spessart*

[http://www.snmg1.nato.int/SNMG1\\_ficheiros/Page2000.htm](http://www.snmg1.nato.int/SNMG1_ficheiros/Page2000.htm)

### 3月29日「ロシア・ソマリア派遣艦隊、ウラジオ出港」(Itar-Tass, March 29, 2009)

ロシア太平洋艦隊からソマリアに派遣される戦闘艦は29日、ウラジオストクを出港した。艦隊は、大型対潜艦、*Admiral Panteleyev*、救難用外洋タグ、補給艦2隻から構成される。太平洋艦隊からソマリアに派遣されるのは、これが2回目である。

#### *Admiral Panteleyev* (満載排水量 7,900 トン)

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Destroyer\\_Admiral\\_Panteleyev.jpg](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Destroyer_Admiral_Panteleyev.jpg)

## 1.2 軍事

### 3月3日「インド国産空母1番艦、2代目 INS *Vikrant* に」(express.buzz.com, March 3, 2009)

インドの国産空母1番艦を建造中のコーチン造船所(CSL)によれば、2015年に就役が期待される国産空母1番艦は、INS *Vikrant* (サンスクリット語で「勇気」あるいは「勝利」の意)と命名されることになろうという。INS *Vikrant*は2代目で、初代は、1960年代に英国から導入され、1971年の印パ戦争で重要な役割を果たし、1997年に36年間の任務を終えて退役した。国産空母1番艦は満載排水量4万トンで、2月28日に起工式が行われた。空母には、ロシア製MIG-29K戦闘機、国産軽戦闘機Tejas及びKamovヘリが搭載される。また、インド海軍艦艇で初めて女性士官用の居住区が設けられる。

### 3月4日「中国国防費、対前年比14.9%増」(AFP, March 4, 2009)

中国の全国人民代表大会の李肇星・報道官は4日、中国の2009年の国防予算が対前年比14.9%増の4,806億8,600万元(約702億米ドル)になる、と述べた。この伸び率は2008年の17.9%よりは少ないが、米国や日本などは透明性の欠如に懸念を表明してきた。この点について、同報道官は、中国の軍事力は主権の防衛と領土保全のみを目的としており、他国に脅威を及ぼすものではない、と弁明した。報道官によれば、増額分の多くは将兵の生活水準の向上に加えて、軍の情報技術と災害対処や対テロ能力の強化に当てられるという。

### 3月5日「フランス、小型潜水艦売り込み」(Strategy Page, March 5, 2009)

フランスの潜水艦メーカー、DCNSは、新型の沿岸用潜水艦、*Andrasta*級を売り込んでいる。*Andrasta*級は、855トン、全長153フィートで、乗員は19人、他に特殊部隊要員など8人が乗艦可



能である。また、最大 5 日間潜水が可能で、水上では低速（日速 170 キロ）で最大 5,400 キロの航行が可能である。前部に 6 本の魚雷発射管があり、機雷や対艦ミサイルも搭載できるが、全ての魚雷は予め魚雷発射管に装填され、補充魚雷は搭載できない。最大 30 日間の行動に十分な補給物資を積み込めるが、通常は 2 週間程度の行動期間を想定している。*Andrasta* 級は、静粛性に優れ、艦船や潜水艦の探知には強力なパッシブ・ソナーを使用する。価格は多くの通常の潜水艦の半分程度の 2 億米ドル以下で、潜水艦を主として防御用に使用したい国にとって魅力的である。

### 3 月 5 日「空母保有間近 中国海軍東海艦隊司令員」( AP, March 7, 2009 )

7 日付けの AP 電は、徐洪猛・中国海軍東海艦隊司令員の 5 日の全人代での空母保有に関する発言について報じた、6 日付の中国メディアの報道を伝えた。それによれば、徐洪猛司令員は、「中国は実際に空母を必要としている。中国は既に、経済的にも、技術的にも空母を建造する能力を持っている。中国は間もなく、空母を保有することになるだろう」と語っている。

中国の空母は戦略的には、台湾海峡の紛争時、米国の介入に対する抑止力になると見られる。また空母は、南シナ海での紛争あるいはインド洋でのシーレーン防衛など、中国沿岸から離れた海域におけるエアーカーバーを提供することになるだろう。更に中国軍の高官や専門家は、中国が空母を保有していない唯一の国連安保理常任理事国であるとして、空母の保有を国力の象徴として重視している。

### 3 月 8 日「中国船、米調査船を妨害」( Navy News Stand, March 9, 2009 )

国防省報道官が 9 日に明らかにしたところによれば、中国船 5 隻が南シナ海で 8 日、米海軍の海洋調査艦、USNS *Impeccable* (T-AGOS-23) を尾行し、接近して進路を妨害するなどした。USNS *Impeccable* は、海南島南方 70 カイリの公海上で、水路調査を行っていた（地図参照）。同艦は、軍事海上輸送コマンド (Military Sealift Command) 傘下で、乗組員は文官で、非武装である。

国防省によれば、中国船が同艦を取り囲み、内 2 隻が 50 フィートまで接近した。中国船は、海軍の情報収集艦、海漁業監視局の漁業監視船及び国家海洋局の巡視船が各 1 隻、中国籍船のトロール漁船が 2 隻であった。USNS *Impeccable* の乗組員は、防衛措置として接近した中国船に向けて放水した。中国船の乗組員は着衣を脱ぎ、25 フィートまで接近し、USNS *Impeccable* の進路に木材を投げ込んだ。別の 2 隻の中国船が同艦の進路の前で停船し、同艦を停船させようとした。中国船は、同船が曳航する音響アレー・ソナーを壊すために棒を使った。同艦の艦長は、中国船にラジオを使って、進路を開けるよう友好的に呼びかけた。国防省の報道官は、中国船の行動は危険な行為であった、と非難した。

国防省によれば、この日の中国船の行動は最近の妨害行為の中で最も悪質であった。中国の巡視船は 4 日、中国沿岸から 125 カイリ離れた黄海で調査活動中の調査船、USNS *Victorious* に向けて何度もスポットライトを照射した。5 日には、中国の海上哨戒機が同艦の上を 12 回にわたって低空飛行した。また、5 日には、中国海軍のフリゲートが USNS *Impeccable* の艦首を約 100 ヤードの距離で横切り、その後海上哨戒機が上空を低空飛行した。7 日には、中国船が、ラジオで、同艦に違法行動であるとして、退去するか、さもなければ重大な結果を招く、と通告した。米国の調査艦は、定期的にこれらの海域で活動している。

Military Sealift Command's Special Mission Ships Program の HP によれば、USNS *Impeccable* は、Special Mission Ships Program が保有する 25 隻の内、5 隻の海洋調査艦の 1 隻で、満載排水量は 5,368 トン、速力 12 ノット、25 人の契約乗組員が乗艦している。横須賀に配備されている。  
(<http://www.msc.navy.mil/PM2/>)

Left: Two Chinese trawlers stop directly in front of the military Sealift Command ocean surveillance ship USNS *Impeccable* (T-AGOS-23) , forcing the ship to conduct an emergency "all stop" in order to avoid collision.

[http://www.navy.mil/view\\_single.asp?id=69478](http://www.navy.mil/view_single.asp?id=69478)

Right: A crewmember on a Chinese trawler uses a grapple hook in an apparent attempt to snag the towed acoustic array of the military Sealift Command ocean surveillance ship USNS *Impeccable*.

[http://3.bp.blogspot.com/\\_E-QOnTGFX\\_o/SbZcEBze2AI/AAAAAAAAAGwo/zUmuSK3czXY/s1600-h/Grapple+hook.jpg](http://3.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/SbZcEBze2AI/AAAAAAAAAGwo/zUmuSK3czXY/s1600-h/Grapple+hook.jpg)

USNS *Impeccable*

<http://www.msc.navy.mil/PM2>

Source: BBC News, March 10

<http://news.bbc.co.uk/2/hi/asia-pacific/7934138.stm>

【関連記事】

「米海軍、調査船を駆逐艦でエスコート」( AP, March 12, 2009 )

米海軍は 11 日、南シナ海で調査活動を継続している調査船、USNS *Impeccable* の護衛として、駆逐艦、USS *Chung-Hoon* を派遣した。

3 月 12 日「ロシア海軍最新フリゲート、2009 年末までに就役へ」( RIA Novosti, March 12, 20 9 )

ロシア・バルト艦隊のマルダシン (RAD Viktor Mardusin) 司令官は 12 日、海軍の最新型フリゲート、*Yaroslav Mudry* が 2009 年末までに就役する、と語った。*Yaroslav Mudry* は、ソマリア沖に派遣されていた、*Neustrashimy* に次ぐ、11540 *Yastreb* プロジェクトの 2 番艦で、現在公試中である。司令官によれば、公試は順調に進展しており、今後 2~3 カ月間継続される。*Yaroslav Mudry* は満載排水量 4,250 トンで、対艦ミサイル、防空システム、ヘリ 1 基などを装備する。*Neustrashimy* は 5 月か 6 月に再びソマリアに派遣され、また *Yaroslav Mudry* もバルト艦隊に配備された後、アデン湾に派遣されると見られる。

*Yaroslav Mudry*

<http://en.rian.ru/russia/20090312/120531152.html>

### 3月16、17日「ロシア軍機、日本海で米艦上空を飛行」(CNN, March 19, 2008)

米軍当局によれば、ロシアの Ilyushin IL-38 海上哨戒機 2 機は 16 日、日本海で米韓演習に参加している米空母、USS *John C. Stennis* 上空約 500 フィートを飛行した。17 日には、2 機の Bear 長距離爆撃機が USS *Blue Ridge* と *Stennis* の上空を数度に亘って飛行した。米海軍の F/A-18 戦闘機が米艦から約 70 カイリ上空でロシア機を捉え、演習海域から離れるまで並行して飛行した。米機からのラジオによる呼びかけにロシア機からの応答はなかった。

### 3月17日「ロシア海軍、新型SSBNの係留運転開始」(RIA Novosti, March 17, 2009)

ロシアのセルジュコフ国防相は 17 日、メドベージェフ大統領も出席した国防省の会議で、*Borey* 級新型 SSBN の 1 番艦、*Yury Dolgoruky* の係留運転を開始した、と語った。同級 SSBN は、最大潜航深度 450 メートル、潜航時の速度約 29 ノットで、16 基の *Bulava* 潜水艦発射弾道ミサイルを搭載する。現在、2 隻の同級 SSBN が建造中で、それぞれ 2009 年と 2011 年に完成すると見られる。ロシアは、2015 年までに 8 隻の同級 SSBN を建造する計画である。*Bulava* (SS-NX-30) は、2009 年中に配備の予定で、10 個の核弾頭を装備し、射程は 8,000 キロである。

#### SSBN *Yury Dolgoruky*

Source : RIA Novosti, March 17

(<http://en.rian.ru/russia/20090317/120602125.html>)

#### 【関連記事】

#### 「ロシア潜水艦戦力、約 60 隻」(RIA Novosti, March 19, 2009)

ロシア海軍高官が 19 日に語ったところによれば、ロシア海軍の現有潜水艦戦力は約 60 隻で、10 隻の SSBN、及び 30 隻以上の通常型、特殊任務潜水艦が含まれる。SSBN の主力は *Delta-IV* と *Delta-III* 級で、世界最大の *Typhoon* 級は 1 隻が *Bulava* 新型 SSBM 実験艦に改装され、他の 2 隻はスベロドビンスク基地の係留されている。SSN は *Oscar II* 級と *Akula* 級で、それぞれ 24 機の SS-N-19 *Shipwreck* 長距離対艦巡航ミサイルを搭載する。第 4 世代の *Graney* 級 SSN は、2010~2011 年に配備される予定である。通常型の主力は *Kilo* 級だが、Project 667 *Lada* 級に徐々に更新されることになっている。*Lada* 級は、最新の対ソナー塗装が施され、巡航距離が延伸され、Club-S 巡航ミサイルを含む最新の対艦、対潜兵器が搭載される。*Lada* 級 1 番艦は現在、公試中で、2009 年中に配備されると見られる。2 番艦はシリーズ生産型の 1 番艦で、2009 年中には就役すると見られる。3 番艦は 2010 年に進水予定である。海軍高官によれば、新技術や兵器の実験用に特殊任務潜水艦を数隻保有している。以前、補助推進装置として原子炉を搭載した、Project 20120 B-90 *Sarov* 級通常型潜水艦の存在が報じられたことがあった。同艦は 2007 年就役し、一部の報道によれば、北洋艦隊に所属して、北極海域の偵察艦としてしようされていると見られる。

ロシア海軍司令部高官筋によれば、常時約 10 隻の潜水艦が世界の各海域で多様な任務を遂行している。これら潜水艦のほとんどは北洋艦隊と太平洋艦隊に所属している。(RIA Novosti, March 20)

### Project 667 *Lada* 級

Source : RIA Novosti, March 20

<http://en.rian.ru/russia/20090320/120665371.html>

### 3月18日「海上自衛隊の新型ヘリ搭載護衛艦、就役」(Japan Today, March 18, 2009)

海上自衛隊最大の護衛艦、新型ヘリコプター搭載護衛艦「ひゅうが」の引き渡し式が18日に行われ、横須賀に配備されて就役した。197メートルの全通甲板を持つ「ひゅうが」は、基準排水量1万3,950トン、最大11機のヘリを搭載でき、最大4機が同時に離着艦できる。海上自衛隊によれば、同艦は、内外での対潜戦や海外での邦人救出活動など、態様な任務遂行の中核となる。また同艦の乗組員は約340人で、初めて女性自衛官17人(士官2人、下士官15人)が乗り組む。(なお、同艦が2007年8月23日に進水した際の海外の反響については、OPRF 海洋安全保障情報月報 2007年8月号、1.2 軍事参照)

### 「ひゅうが」

出典：海上自衛隊 HP ; <http://www.mod.go.jp/msdf/formal/gallery/ships/dd/hyuga/181.html>

### 3月19日「米海軍原潜と揚陸艦、ホルムズ海峡で接触」(U.S. 5th Fleet Public Affairs, Press Release #046-09, March 20, 2009)

米海軍のSSN、USS *Hartford* (SSN 768) と揚陸艦、USS *New Orleans* (LPD 18) は19日、ホルムズ海峡で接触事故を起こした。USS *Hartford* の乗組員15人は軽傷を負ったが、任務に復帰した。USS *New Orleans* には負傷者はいなかった。SSN の推進装置には損傷がなかったが、USS *New Orleans* の燃料タンクが損傷し、約2万5,000ガロンのディーゼル油が漏れた。両艦とも自力航行が可能である。事件の全容は現在、調査中である。

The Los Angeles-class attack submarine USS *Hartford* (SSN 768) pulls into Mina Salman pier in Bahrain where U.S. Navy engineers and inspection teams will assess and evaluate damage.

[http://www.navy.mil/view\\_single.asp?id=69837](http://www.navy.mil/view_single.asp?id=69837)

3月20日「インドネシア、国連レバノン暫定駐留軍に戦闘艦派遣」(The Jakarta Post, March 20, 2009)

インドネシア海軍戦闘艦、KRI *Diponegoro-365*は20日、国連レバノン暫定駐留軍 (UNIFIL) の海軍任務部隊 (CTF-448) に参加するため、ジャカルタを出港した。同艦は、途中、インドのコーチン、オマーンのサララ、エジプトのポートサイド、そしてレバノンのレールートに寄港する。CTF-448には、フランス、トルコ、ギリシャ、イタリア、ベルギー、スペイン及びドイツが参加している。インドネシア海軍が国連のPKO活動に参加するのは初めてで、派遣期間は10月までの6カ月間である。任務が成功裡に終了すれば、交代艦を派遣することになる。

3月24日「ロシア海軍駆逐艦、ジャカルタ寄港」(RIA Novosti, March 24, 2009)

ロシア海軍駆逐艦、*Admiral Vinogradov*は24日、アデン湾での3カ月間にわたる海賊対処任務を終え、ウラジオストクへの帰途、随伴の補給艦、*Boris Butoma*と共に、ジャカルタに寄港した。*Admiral Vinogradov*の艦長によれば、3カ月間で12回のエスコート任務で、17カ国の船舶計54隻を護衛した。同艦は、28日まで滞在し、4月6～10日の間、中国の湛江に寄港して、ウラジオストクに帰投する。

### 1.3 外交・国際関係

3月10日「アロヨ比大統領、領海基線法に署名」(Philippine Daily Inquirer, March 12, 2009)

フィリピンのアロヨ大統領は10日、領海基線法、Republic Act No. 9522 (the Philippine Archipelagic Baselines Law) に署名した。通常の署名と異なり、他国との無用の論議を避けるため、式典はなかった。領海基線法は、スカーバラ礁 (Scarborough Shoal) とカラヤン諸島 (the Kalayaan group : タガログ語で「南沙諸島」) を領海基線に含めず、これらを基線の外側にある、(UNCLOS 第

121条の「島の制度」(“regimes of islands”)として扱っている。領海基線は主要な群島のみが含まれているが、領海基線法第2条は、スカーバラ礁とカラヤン諸島に対するフィリピンの主権を明記している。EEZは領海基線に基づいている。フィリピンの大陸棚外側限界の延長申請提出期限は5月13日までである。添付の地図は領海基線法に示されたフィリピン領海基線の概念図である。

大統領府のエルミタ官房長官は11日、「我々は、フィリピンの主権を確認するメッセージを世界に発信した」として、領海基線法が惹起する如何なる論議もASEANと中国とのCode of Conductに従って解決できる、と語った。

#### フィリピン領海基線の概念図

[http://www.ellentordesillas.com/wp-content/uploads/2008/03/map3\\_cmoa\\_option.JPG](http://www.ellentordesillas.com/wp-content/uploads/2008/03/map3_cmoa_option.JPG)

#### 【関連記事1】

##### 「中国、比領海基線法署名に抗議」(INQUIRER.net, March 11, 2009)

在マニラ中国大使館は11日、アロヨ大統領が領海基線法に署名したことに対して、南シナ海の領土に対する違法かつ根拠のない主張とし、強く反対し、厳重に抗議する、との声明を発表した。声明は、南巖島(スカーバラ礁)と南沙諸島は常に中国領土の一部であり、中国はこれら諸島と周辺海域に疑問の余地のない主権を行使してきた、と強調している。

#### 【関連記事2】

##### 「中国漁業監視船、西沙諸島に到着」(China Daily, March 16, 2009)

中国の漁業監視船、「中国漁政311」号は15日、西沙諸島に到着した。同船は、漁業資源保護や海洋監視を任務とする。同船は、中国最大の漁業監視船で、海軍救難艦の改造で、4,450トン、最大航行速度20ノットである。同船は、南シナ海の西沙、南沙及び東沙諸島を含むEEZにおける哨戒活動に当たる。南中国海漁業監視局長は、同船が中国の最南端の領海にある西沙、南沙及び東沙諸島周辺での中国漁船を保護すると共に、これら諸島に対する中国の主権を誇示することになる、と語った。

中国は27日、2隻目の漁業監視船、「中国漁政45001」号を西沙諸島に派遣した。「中国漁政45001」号は、「中国漁政311」号の任務を支援する。(China Daily, March 28, 2009)

### 「中国漁政 311」号

[http://www.chinadaily.com.cn/china/2009-03/17/content\\_7587410.htm](http://www.chinadaily.com.cn/china/2009-03/17/content_7587410.htm)

#### 【関連記事 3】

##### 「比国防相、中国の監視船派遣を非難」(INQUIRER.net, March 16, 2009)

フィリピンのテオドロ国防相は 16 日、中国が監視船を派遣したことを批判した。国防相は、「フィリピンの領海基線法は世界で承認された UNCLOS に準拠したものであり、これによってフィリピンは法的武器を得、従って我々はこの海域に兵力を派遣するつもりはない」と語った。

#### 【関連記事 4】

##### 「ベトナム、中国に国際法規の遵守を要請」(VietNamNet/VNA, March 17, 2009)

ベトナム外務省報道官は 17 日、中国が漁業監視船、「中国漁政 311」号を西沙諸島に派遣したことに対して、次のように述べた。「東海（南シナ海）における如何なる海洋資源開発も、UNCLOS を含む国際法規を遵守して、当該国の海洋主権と管轄権を尊重すべきである」と述べた。

##### 3月10日「インドネシア・シンガポール、海洋境界条約に調印」(AFP, March 10, 2009)

インドネシアとシンガポールは 10 日、海洋境界の一部を確定する条約に調印した。インドネシアのウィラユダ外相によれば、この条約は両国間の西部海域の海洋境界を規定するもので、過去 4 年間の交渉の成果である。外相によれば、東部海域の境界画定は、マレーシアを加えた 3 国間による交渉で解決されることになっている。シンガポールのヨー外相は、この条約によってマラッカ海峡における海賊対策が促進される、と語った。

## 1.4 海運・資源・環境・その他

##### 3月2日「2006年の世界の漁獲高、1950年以来最高に」(Economist, March 2, 2009)

2 年毎に公表される国連食糧農業機関 (FAO) の最新の報告書によれば、2006 年の世界の漁獲高は 1 億 4,360 万トンで、統計を取り始めた 1950 年以降、最高となった。その内、1 億 1,000 万トンが食用に、残りは飼料やその他の用途に使用された。今や、食用になった魚の 47%が養殖で、その割合は



増加する傾向にある。中国の漁獲高は世界最大で、海洋からの漁獲が 1,710 万トン、養殖が 3,440 万トンであった。

[http://www.economist.com/daily/news/displaystory.cfm?story\\_id=13208837&fsrc=nwl](http://www.economist.com/daily/news/displaystory.cfm?story_id=13208837&fsrc=nwl)

### 3月2日「VLCCに原油貯蔵、値上がり期待」(Shiptalk, March 2, 2009)

最近の報道によれば、原油タンカー、主として VLCC を、原油貯蔵用に使用する傾向が強まっている。現在、少なくとも 8,000 万バレルの原油がタンカーに貯蔵されており、最大 45 隻程度の VLCC が使用されている。この数は現在、稼働している世界の VLCC の 10%に当たり、原油の需給バランスを厳しくしている。原油価格は 2008 年のピーク時から大幅に下がっているが、価格上昇が予想されている。こうした状況下で、2008 年後半の低価格時に購入した原油を、値が上がるまで VLCC に貯蔵する傾向が、米国のメキシコ湾岸やその他の場所で増えている。その結果、原油輸送に使われる VLCC の隻数が減り、供給量の低下をもたらしている。VLCC を貯蔵タンクとして使用する傾向は、原油価格の動向によっては更に増えるとの見方もある。

### 3月9日「中国、有人深海潜水艇を開発」(Asia Bulletin, March 9, 2009)

中国国家海洋局の孫志輝局長は 9 日、中国は 2008 年に有人深海潜水艇を完成させ、2009 年に公試を開始する、と語った。成功すれば、中国の有人深海潜水艇は 7,000 メートルの深海に到達することができ、これまでの 6,500 メートルを凌駕することになる。孫局長によれば、潜水艇は最大 3 人までの乗組員を乗せ、深海における天然資源開発に重要な役割を果たすことになろう。

### 3月21日「リベリア籍船、3,000 隻に」(MARINE LOG, March 21, 2009)

リベリア籍船の隻数は、ギリシャの海運会社管理用船のアフラマックス・タンカー、*Ise Princess* (10万 5,400DWT)が登録したことで、3,000 隻目となった。LISCR (the Liberian International Ship & Corporate Registry) によれば、最初のリベリア籍船も 1949 年に登録されたギリシャ船で、ギリシャ関係船の登録隻数は今日、ほぼ 600 隻に達し、総トン数は 3,800 万 DWT になる。ギリシャ関係船は今後、更に増えると見られる。経済危機にもかかわらず、リベリア籍登録隻数は 2009 年の最初の 2 カ月半で 110 隻を超えている。

**3月24日「スエズ運河、6カ月連続減収」(Lloyd's List, March 24, 2009)**

エジプトのスエズ運河庁によれば、スエズ運河の2月の収入と通航隻数は共に減少し、6カ月連続の減収となった。それによれば、2月の収入は、前年同期の4億770万米ドルに比して、3億180万米ドルであった。一方、通航隻数も、前年同期の1,676隻に比して、1,272隻であった。因みに、2009年1月は1,313隻、2008年12月は1,560隻であった。減少の要因としては、海運業が世界不況のあおりを受けている中、海賊が横行するアデン湾を避けて喜望峰周りにルート変更する船社が増えていることなどが指摘されている。エジプトの経済専門家の予想では、2009年6月までの2008-2009年度運河収入は、前年度の51億米ドルから、44億米ドルに減少すると見込まれている。

**3月26日「中国・ミャンマー、石油パイプライン協定に調印」(The Irrawaddy, March 28, 2009)**

中国とミャンマーは26日、両国を繋ぐ石油パイプラインの建設を含む、4つの協定に調印した。これによって、中国は2009年に、ベンガル湾のアラカン州チャウッピュー(Kyaukpju)港から中国南西部に至る、1,200マイル以上の石油・天然ガス・パイプラインの建設を開始する。このパイプラインは、中国雲南省昆明を經由して、貴州省から四川省重慶に至る。中国の報道によれば、中国は、雲南省での建設作業を、総額720億元(105億米ドル)のエネルギー計画の一環として、2009年上半期にも開始する。この計画には、チャウッピュー港の拡充と共に、鉄道、道路、水路の建設も含まれる。また、この計画の一環として、中国は、ミャンマー軍事政権から、同国沖の天然ガスを30年間にわたって取得することが認められている。専門家は、中国は、マラッカ海峡迂回ルートとして、このパイプラインを中東、アフリカからの天然ガスと石油輸入にも利用する、と見ている。

**3月27日「中国、渤海湾の新油田で採掘開始」(Xinhua, March 27, 2009)**

中国海洋石油(CNOOC)は27日、新たに発見された渤海湾の2カ所の石油・ガス田で採掘を開始した、と発表した。1つは、水深約26メートルの海域で、油井は3,910メートルまで掘削された。この油井は、試掘では平均1日当たり1,270バレルの石油、39万3,000立方フィートの天然ガスを産出した。もう1つは、水深約27メートルの海域で、油井は3,991メートルまで掘削された。この油井は、試掘では平均1日当たり3,930バレルの石油、1,520万立方フィートの天然ガスを産出した。

## 2. 情報分析

### 2009年版・中国の軍事力に関する米国防省報告書

米国防省は3月25日、中国の軍事力に関する2009年版の年次報告書 (Annual Report to Congress: Military Power of the People's Republic of China 2009)<sup>1</sup>を公表した。これは通算8回目の報告書で、オバマ政権になってから初めてである。

今次報告書は2008年版と同様に、「中国の軍事及び安全保障問題における透明性の欠如は、不確実性を高め、誤解と誤算の可能性を強め、安定に対するリスクを高めている」、「最近の中国の軍事力に見る趨勢は、東アジアの軍事バランスを変える主たる要因であり、中国は、台湾を越えてアジアで広範な軍事活動を遂行する能力を持つことになろう」などと述べ、依然として透明性を欠く中国の軍事力の動向に対して、引き続き警戒感を示す内容となっている。今次報告書では、Special Topicとして、中国のグローバルな軍事的関与 (China's Global Military Engagement) を取り上げ、2002年以降の伝統的な軍事外交、他国との合同演習、国連PKO活動、人道的支援・災害救助活動、そして武器輸出に至る中国の対外軍事活動の活発化に言及しているのが注目される。今次報告書は、特に中国の軍事力に対するオバマ政権の独自の見解を示したものではないが、全体の記述内容から、透明性を欠く中国の軍事力の動向に対する警戒感はブッシュ政権時代の報告書と共通している。

以下は、本月報の関心領域から見た、今次報告書の主な特徴である。

#### 1. 台湾正面の軍事バランス

中国の軍事力増強の重点は短期的には、米国の介入の可能性を視野に入れた、台湾海峡における紛争対処能力の整備にあることには変わりはない。報告書は、この1年間、馬英九政権の登場によって兩岸関係の緊張が大幅に改善されたにもかかわらず、軍事力の増強が続いている、と指摘している。

台湾正面で目立つのは、依然としてミサイル戦力の急速な増強が続いていることである。報告書によれば、2008年9月までに、約1,050~1,150基の移動式CSS-6とCSS-7短射程弾道ミサイル(SRBM)が台湾正面に配備されており、2008年版と同様に年間100基以上のペースで増強されていると指摘している。これら新型のミサイルは、射程が延伸され、命中精度が向上し、また弾頭重量も増えている。

航空戦力については、中国は空軍と海軍を併せて約2,300機の作戦機を保有しており、2008年版と同様に、その内、現在490機が無給油で台湾に対する作戦行動が可能と見ている。しかも、搭載火器などを減らして他の前方展開の作戦機を動員すれば、機数が大幅に増える。一方で、台湾が保有する作戦機は390機である。

海軍戦力については、東海及び南海艦隊が台湾海軍と直接対峙する戦力だが、報告書によれば、両艦隊の戦力は駆逐艦17隻、フリゲート39隻、戦車揚陸艦25隻、中型揚陸艦23隻、攻撃型潜水艦32隻、攻撃型原潜1隻で、フリゲートの3隻増の他は2008年版とほぼ同じだが、ミサイル搭載沿岸

<sup>1</sup> 報告書の全文は以下を参照

[http://www.defenselink.mil/pubs/pdfs/China\\_Military\\_Power\\_Report\\_2009.pdf](http://www.defenselink.mil/pubs/pdfs/China_Military_Power_Report_2009.pdf)

哨戒艇 55 隻で、2008 年版の 35 隻から大幅増となっている。一方、台湾海軍の戦力は駆逐艦 4 隻、フリゲート 22 隻、戦車揚陸艦 12 隻、中型揚陸艦 4 隻、攻撃型潜水艦 4 隻と 2008 年版と同じだが、ミサイル搭載沿岸哨戒艇は 59 隻で、2008 年版より 8 隻増となっている。

台湾海峡兩岸の軍事バランスの動向は日本の安全保障にも重大な関わりを持つが、今次報告書は、台湾海峡兩岸の軍事バランスについて、「中国側の優位に推移しつつある」(the balance of forces continues to shift in the mainland's favor)と述べている。これは 2007 年版から続く評価である。とはいえ、報告書でも、中国の台湾に対する軍事行動は幾つかの要因から多重に抑制されているとし、特に米国の介入を想定した場合、中国は台湾に進攻し、占領するほどの軍事力を未だ保有するに至っていない、と見ている。更に、中国の指導部は、米国を巻き込む台湾を巡る紛争は米中間の長期的な敵対関係を招来し、それは中国の利益とならないと認識している、と指摘している。

## 2 . アクセス拒否・地域拒否 (anti-access / area-denial) 能力の強化

(1) 中国の海空軍力の到達範囲は、台湾を超えて拡大する趨勢にある。報告書によれば、台湾有事において第 3 国の介入を阻止あるいは迎撃する手段を開発することを狙いとして、中国は、西太平洋に展開する第 3 国の軍事力をより遠隔の海域で阻止できる (アクセス拒否)、あるいは域内での作戦行動を拒否する (地域拒否) 能力の開発に、持続的な努力を傾注している。しかも、こうした中国のアクセス拒否・地域拒否能力は、海洋と空に加えて宇宙空間に至る益々多層的なシステムで構成されようとしている。

このアクセス拒否・地域拒否能力は、米国が最も懸念するものである。3 月 8 日に起こった米海軍海洋調査艦に対する中国側の妨害事件が示すように (本号 1.2 軍事参照)、西太平洋海域は、中国のアクセス拒否・地域拒否能力のリーチが伸びるにつれて、次第に米中両国の海洋戦略が交差し、せめぎ合う海域になってきている。

(2) この戦略における中国の当面の狙いは、「第 2 列島線」(日本の南東方向からグアム周辺に至るライン) に至る多層的な防衛システムを通じて、この海域における水上艦艇に脅威を与える能力を確保することである。そして長期的には、宇宙配備のセンサーと OTH (超水平線) レーダーを含む中国の C4ISR 能力 (Command, Control, Communication, Computing, Information, Surveillance, Reconnaissance) が向上すれば、中国は西太平洋の彼方における軍事活動を探知し、追跡し、照準できるようになるであろう。中国の狙いについて、過去 3 年間の報告書はこうした認識を示してきたが、今次報告書は、一部の中国海軍の戦略家の間で、「遠隔海域防衛」(“Far Sea Defense”) 概念が「沿岸域積極防衛」(“Offshore Active Defense”) 概念に替わって強調されるようになった、と指摘している。

(3) 報告書によれば、中国海軍はアクセス拒否・地域拒否能力として、約 75 隻の主要戦闘艦、60 隻以上の潜水艦、55 隻の中型及び大型揚陸艦、約 75 隻のミサイル搭載哨戒艇を保有しているが、この 1 年間の主な増強ぶりについては、以下の諸点が指摘されている。

①この 1 年間、2 隻の新型商級 (Type093) SSN と 1 隻の晋級 (Type094) SSBN が配備された。中国の原潜は他に、旧式の 4 隻の漢級攻撃型原潜 (SSN) と 1 隻の夏級弾道ミサイル搭載原潜 (SSBN) がある。

②宋級 (Type039) 攻撃型潜水艦 (SS) は 13 隻 (2008 年版・10 隻) が配備されていると見られる。宋級は YJ-82 (CSS-N-8) 対艦巡航ミサイルを搭載する。後継艦は元級 SS で、1 番艦は既に配備されており、2 番艦は海上公試中である。元級 SS も YJ-82 対艦巡航ミサイルを搭載するが、

非大気依存推進装置 (AIP) を装備していると見られる。

- ③中国海軍は近年、数隻の新型国産水上艦を配備してきた。これらの国産艦は、2 隻の旅洋Ⅱ級 (Type052C) 誘導ミサイル駆逐艦 (DDG)、2 隻の旅洲級 (Type051C) DDG、4 隻の江凱Ⅱ級 (Type054A) 誘導ミサイル・フリゲート (FFG) である。旅洋Ⅱ級は国産の HHQ-9 長射程対空ミサイルを、そして旅洲級はロシア製の SA-N-20 長射程対空ミサイルを搭載している。江凱Ⅱ級は、現在開発中の HHQ-16 中射程垂直発射対空ミサイルを搭載することになっている。報告書は、これらの対空ミサイル搭載艦は、中国海軍にとって伝統的に弱体であった対空戦闘能力の強化を優先課題としていることを示している、と指摘している。水上戦闘艦に関する今次報告書の記述は、江凱Ⅱ級が 1 隻増となっている以外、2008 年版と同じである。
- ④中国は現在、新型の紅稗級 (Type022) 双胴型ミサイル哨戒艇を建造しており、既に 40 隻以上が就役している。この哨戒艇は、8 基の YJ-83 対艦巡航ミサイルを搭載できる。
- (4) この他、今次報告書によれば、2008 年 10 月に 1 万トン級の病院船、岱山島が就役し、この病院船は、アジアにおける人道的支援・災害救助にも活用できる。また、報告書は、2008 年 5 月に、中国海軍の海上民兵 (民間漁船で構成され、「民兵海上支援分遣隊」(Militia Offshore Support Detachment) と称される) が、浙江省沖合の指定された海域で行動中の 2 隻の海軍戦闘艦に対して、給油と弾薬その他の補給支援を行ったとされる出来事に注目している。しかし、民兵海上支援分遣隊が中国から遠く離れた海域で行動する艦艇に対してどの程度の兵站補給支援ができるかは、不明としている。
- (5) 今次報告書は初めて、海南島の新しい海軍基地に言及し、SSN や SSBN に加えて、最新型の水上戦闘艦を収容するに十分な大きさを持っている、と見ている。その上で、地下施設を有するこの基地の戦略的価値について、中国海軍は、この基地から直接、重要な国際シーレーンにアクセスできると共に、南シナ海に隠密裏に潜水艦を展開できる、と指摘している。3 月 8 日に起こった米海軍海洋調査艦に対する中国側の妨害事件は、海南島南方 70 カイリの公海上であった。(海南島三亜の海軍基地については、OPRF 海洋安全保障情報月報 2008 年 4 月号 1.2 軍事参照。)
- 中国は、南シナ海の西沙諸島、南沙諸島を U 字型に取り囲んで領土主権を主張しており、フィリピンの領海基線法に抗議し、監視船を派遣するなど、領土主権を誇示する動きを強めている。(本号 1.3 外交参照。) この海域は日本、韓国、台湾への原油輸送の 80% が利用する重要なシーレーンでもあり、三亜の海軍基地の動向は、日本を含む北東アジアの安全保障にも重要な意味を持つことになろう。

### 3. シーレーン防衛能力とインド洋におけるプレゼンス

- (1) 報告書は、中国経済が発展するにつれ、海外資源への依存度が増大しており、このことが中国の戦略的対応において重要な要素になってきている、と指摘している。報告書によれば、中国は 2008 年 5 月、日本を抜いて世界第 2 位の原油輸入国となった。中国は原油需要の 53% 以上を輸入に依存しており、その輸入先は中東から約 46%、アフリカから 32% となっている。従って、中国にとって、中東、アフリカから本国に至るシーレーン防衛は重要な安全保障上の課題である。
- (2) 2008 年版報告書では、中国の現在の遠距離への戦力投入能力とプレゼンス維持能力は限定されているとして、中国軍は少なくとも短期的・中期的には、期待と能力のギャップに直面するだろうと見、「現在のところ、中国は軍事力によって、海外のエネルギー投資資産を護ることもできないければ、重要なシーレーンを防衛することもできない」との認識を示していた。そして 2008 年

版報告書は、中国は長期的には、空母の開発を含む遠距離の戦力投入能力、遠征能力、水中戦闘能力、長距離精密攻撃能力、海洋 C4ISR、長距離補給能力と前方展開基地の確保、特に公海における訓練演習、更には海外におけるより積極的な軍事プレゼンスなどの整備を通じて、このギャップを埋めていくであろう、と指摘していた。

- (3) このギャップを埋めるという点で注目されるのは、中国が 2008 年 12 月、海賊対処のために、アデン湾、ソマリア沖に 2 隻の戦闘艦と補給艦からなる艦隊を派遣したことである。今次報告書は、この派遣を、海外への随時派遣以外に、中国海軍の西太平洋を越えた初めての作戦展開と指摘している。

中国は既に、第 2 次派遣艦隊をアデン湾、ソマリア沖に派遣している。アデン湾、ソマリア沖での海賊対処活動は終焉が展望できない状況にあり、中国の継続的な艦隊派遣は事実上、インド洋における一定のプレゼンス確保を意味する。中国海軍の張徳順副参謀総長は 3 月 11 日、中国海軍のソマリア沖での海賊対処任務は短期間では終わらない、海軍は既に、アデン湾での護衛任務のための長期的計画を立案している、と語っている。(4 月 2 日出港。本号 1.1 治安参照。)

海賊対策は、中国のインド洋進出に絶好の口実を与えたと言える。中国が展開しつつある、中東、アフリカからのシーレーン沿いに軍事拠点を確保する、いわゆる「真珠数珠繋ぎ」戦略(“String of Pearls” Strategy) は、継続的な艦隊派遣の途次に活用されるようになれば、日本のシーレーンの安全保障にとっても看過できない重要な戦略的意味を持つことになる。

米国のシンクタンク、the Center for a New American Security のフェロー、カプラン(Robert D. Kaplan) は、インド洋が中国とインドによる「海洋におけるグレート・ゲーム」の場になりつつあるとし、インド洋がパワー・ゲームにおける「21 世紀のセンター・ステージ」と意味づけている<sup>2</sup>。

- (4) こうした過程で、中国がいつ空母を保有するかが注目される。空母は、中国海軍が遠距離のシーレーン防衛能力を含む、本格的な外洋海軍に発展する上で不可欠のプラットフォームと見られるからである。2008 年版では、「もし指導部が決断すれば、中国の造船工業能力から見て、この 10 年以内に国産空母の建造をスタートさせることが可能であろう」と述べており、指導部の決断次第で建造に着手することができると見ていた。今次報告書では、中国が既に空母保有の意志を公に表明していること、ロシア製の Su-33 艦載戦闘機の購入に依然、関心を示していること、50 人の海軍パイロットが艦載機操縦訓練を始めたことと伝えられることなどに言及し、「中国は 2020 年頃までに多目的空母を建造することを検討している」と述べている。(徐洪猛・中国海軍東海艦隊司令員の 3 月 5 日の全人代での空母保有に関する発言については、本号 1.2 軍事参照。)

<sup>2</sup> Robert D. Kaplan, “Center Stage for the Twenty-first Century; Power Plays in the Indian Ocean”, *Foreign Affairs*, Vol. 88, No. 2 (March / April 2009), pp.16-32.

## リンク先

AFP	<a href="http://www.afp.com/home/">http://www.afp.com/home/</a>
AP	<a href="http://www.ap.org/">http://www.ap.org/</a>
Asia Bulletin	<a href="http://www.asiasource.org/bulletins/">http://www.asiasource.org/bulletins/</a>
BBC News	<a href="http://www.news.bbc.co.uk/">http://www.news.bbc.co.uk/</a>
China Daily	<a href="http://www.chinadaily.com.cn/">http://www.chinadaily.com.cn/</a>
CNN	<a href="http://edition.cnn.com/">http://edition.cnn.com/</a>
Combined Maritime Forces Public Affairs,	<a href="http://www.cusnc.navy.mil/">http://www.cusnc.navy.mil/</a>
Economist.com	<a href="http://www.economist.com/">http://www.economist.com/</a>
Ecoterra International	<a href="http://www.businesspatrol.com/country-links/ecoterra-international,9870.html">http://www.businesspatrol.com/country-links/ecoterra-international,9870.html</a>
expressbuzz.com	<a href="http://www.expressbuzz.com/edition/default.aspx">http://www.expressbuzz.com/edition/default.aspx</a>
Fairplay Daily News	<a href="http://www.mschoa.eu/FairplayStoryDisplay.aspx?articlename=dn0020090306000000">http://www.mschoa.eu/FairplayStoryDisplay.aspx?articlename=dn0020090306000000</a>
GMA News TV	<a href="http://www.gmanews.tv/index.html">http://www.gmanews.tv/index.html</a>
House Armed Services Committee	<a href="http://armedservices.house.gov/">http://armedservices.house.gov/</a>
Hurriyet Daily News	<a href="http://www.hurriyet.com.tr/english/home/">http://www.hurriyet.com.tr/english/home/</a>
INQUIRER.net	<a href="http://www.inquirer.net/">http://www.inquirer.net/</a>
Itar-Tass	<a href="http://www.itar-tass.com/eng/">http://www.itar-tass.com/eng/</a>
Japan Today	<a href="http://www.japantoday.com/">http://www.japantoday.com/</a>
Lloyd's List	<a href="http://www.lloydslist.com/ll/home/index.htm">http://www.lloydslist.com/ll/home/index.htm</a>
MARINE LOG	<a href="http://www.marinelog.com/">http://www.marinelog.com/</a>
Maritime Global Net	<a href="http://www.mgn.com/">http://www.mgn.com/</a>
Maritime Security Centre, Horn of Africa	<a href="http://www.mschoa.org/Default.aspx">http://www.mschoa.org/Default.aspx</a>
MOL 商船三井	<a href="http://www.mol.co.jp/menu-e.html">http://www.mol.co.jp/menu-e.html</a>
Navy News Stand	<a href="http://www.navy.mil/swf/index.asp">http://www.navy.mil/swf/index.asp</a>
Philippine Daily Inquirer	<a href="http://www.inquirer.net/">http://www.inquirer.net/</a>
Reuters	<a href="http://www.reuters.com/">http://www.reuters.com/</a>
RIA Novosti	<a href="http://en.rian.ru/">http://en.rian.ru/</a>
Shiptalk	<a href="http://www.shiptalk.com/">http://www.shiptalk.com/</a>
Strategy Page	<a href="http://www.strategypage.com/">http://www.strategypage.com/</a>
The Earth Times	<a href="http://www.earthtimes.org/">http://www.earthtimes.org/</a>
The Irrawaddy	<a href="http://www.irrawaddy.org/">http://www.irrawaddy.org/</a>
The Jakarta Post	<a href="http://www.thejakartapost.com/">http://www.thejakartapost.com/</a>
The Times of India	<a href="http://timesofindia.indiatimes.com/">http://timesofindia.indiatimes.com/</a>
Trade Winds	<a href="http://www.tradewinds.no/">http://www.tradewinds.no/</a>
UN News Centre	<a href="http://www.un.org/news/">http://www.un.org/news/</a>
U.S. 5th Fleet Public affairs	<a href="http://www.dvidshub.net/units/USNF-5F">http://www.dvidshub.net/units/USNF-5F</a>
U.S. Central Command	<a href="http://www.centcom.mil/index.php?lang=en">http://www.centcom.mil/index.php?lang=en</a>
U.S. Naval Forces Central Command	<a href="http://www.cusnc.navy.mil/">http://www.cusnc.navy.mil/</a>
VietNamNet	<a href="http://english.vietnamnet.vn/">http://english.vietnamnet.vn/</a>
Xinhua (新華社)	<a href="http://www.xinhuanet.com/english/">http://www.xinhuanet.com/english/</a>
Yonhap News	<a href="http://english.yonhapnews.co.kr/">http://english.yonhapnews.co.kr/</a>







## 海洋政策研究財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目15番16号 海洋船舶ビル3F  
TEL.03-3502-1828 FAX.03-3502-2033

((財)シップ・アンド・オーシャン財団は、標記名称にて活動しています)